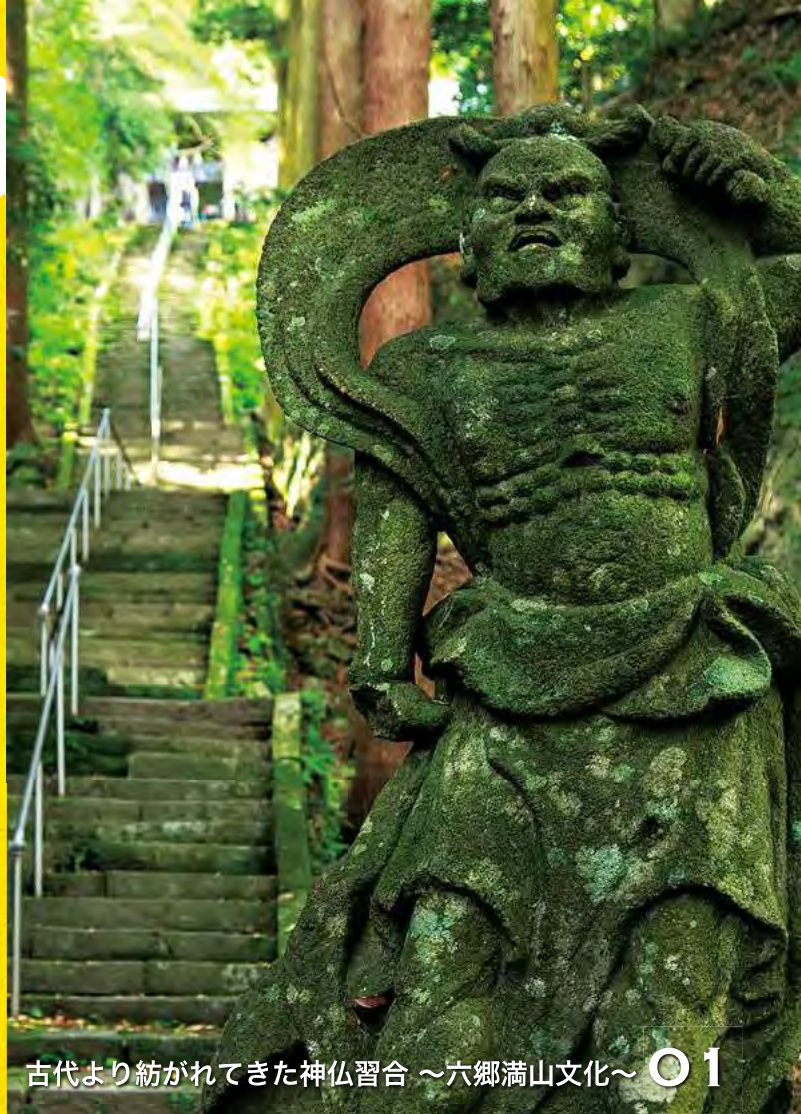


第2章

先ゆく国東 Spirits

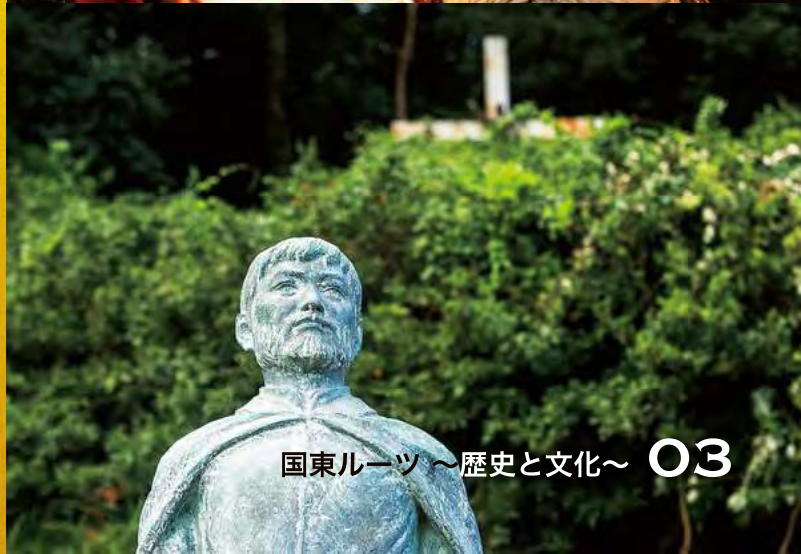
今日まで受け継がれてきた
国東の背景にあるのは、
1300年前から続く悠久の歴史です。
このまちに息づく
歴史を紐解き、
今ここにある国東を深掘りする。
国東のルーツを知ることで、
もう一度、私たちの進むべき道を
考えることができるかもしれません。



古代より紡がれてきた神仏習合 ～六郷満山文化～ 01



鬼が仏になった里くにさき 02



国東ルーツ ～歴史と文化～ 03

先ゆく国東Spirits

古代より 紡がれてきた 神仏習合

ろくごう まんざん
六郷満山文化



【両子寺】 718年に仁聞菩薩によって開基されたと伝わる六郷満山の中山本寺で、江戸時代には総持院として六郷満山寺院を統括する立場にありました。参道の仁王像は国東随一ともいわれる威容を誇ります。

六郷満山の総持院

両子寺
参道

18

国東半島一帯にある寺院群の総称を六郷満山と呼び、
神と仏を同一の存在とする神仏習合の文化が今日まで受け継がれています。
異文化を認め合い、共存する独特の思想・理念が国東で花開きました。

開山二二〇〇年を迎えた
六郷満山文化

国東半島の中央に位置する両子山から放射状に広がる六つの郷「来縄・田染・伊美・国東・武蔵・安岐」を「六郷」といい、「満山」はそこに築かれた寺院群を指します。国東半島では、神仏習合発祥の地といわれる宇佐神宮の影響のもと、六郷満山文化と呼ばれる独特な山岳宗教文化が栄えました。その文化は人々の暮らしに溶け込み、国東でも神棚と仏壇が隣り合わせに並んでいる家庭が多くみられます。六郷満山の多くの寺院が、宇佐八幡神の化身とされる仁聞菩薩にんもんぼさつによって養老2年(718)に開基されたと伝わっています。古来より続く六郷満山の文化は現代に受け継がれ、平成30年(2018)に開山1300年という大きな節目を迎えました。

霊場巡り
国東
六郷満山寺院



千燈寺

六郷満山霊場第17番札所。大日如来像を浮き彫りにした宝篋(ほうきょう)印塔や、石造太郎天像(たろうてんぞう)、木造如来像などが安置されています。



文殊仙寺



大化4年(648)に役行者によって開かれたとされる六郷満山随一の古刹。日本三文殊の一つで、奥之院では日々護摩祈願が厳修されています。



泉福寺

六郷満山霊場第23番札所。無著妙融禅師により創建された禅宗寺院。天台宗がほとんどの31霊場の中で、違った趣きを感じられます。



瑠璃光寺

本尊の薬師如来の両脇に立つ阿弥陀如来、釈迦如来はいずれも平安中〜後期の作と伝えられています。樹齢600年のサルズベリも有名です。



報恩寺

六郷満山霊場第28番札所。戦火や火事に幾度となく遭ったものの本尊や諸仏諸菩薩は無事だったことから、霊験あらたかなお寺として信仰されています。

仁間菩薩の足跡を巡る

宇佐神宮
六郷満山31霊場巡り

宇佐神宮六郷満山霊場巡りは、六郷満山の多くの寺院がその開祖に挙げる宇佐八幡神の化身とされる仁間菩薩の足跡を巡る巡礼コースとして、1番札所の宇佐神宮から31番札所の両子寺までの31霊場(うち16霊場が国東市に所在)で構成されています。八幡神が祀られる宇佐神宮と六郷満山の寺々を巡ることにより、宇佐国東半島地域で今日まで脈々と息づいてきた神仏習合文化の様相をうかがい知ることがができます。



岩戸寺



成佛寺



先ゆく国東Spirits

鬼が 02 仏になつた 里くくにさき

「くくにさき」の寺には鬼がいる。

一般に恐ろしいものの象徴である鬼だが、

「くくにさき」の鬼は人々に幸せを届けてくれる。

おどろおどろしい岩峰の洞穴に棲む「鬼」は



20



日本遺産認定記念
鬼朱印・
不動朱印

日本遺産認定を記念し、「災いを払い福をもたらす六郷満山くくにさき朱印めぐり」をテーマに、「鬼朱印」「不動朱印」を発行。専用台紙の特別朱印で、六郷満山の鬼や仏を身近に感じられる企画として、多くの反響を呼びました。



【鬼会面 - おにえめん -】

かつて六郷満山の多くの寺院で修正鬼会が盛んに行われていた頃は、地区ごとに異なるさまざまな鬼会面が使われていました。他ではあまり例をみない仮面であり、修正鬼会の役割の違いに応じて「荒鬼面」と「鈴鬼面」の2種類に分かれ、登場していました。



日本遺産のストーリー
◀などの詳細がご覧になります。

不思議な法力を持つとされ、

鬼に憧れる僧侶達によって「仏（不動明王）」と重ねられていった。

「くにさき」の岩峰につくられた寺院や岩屋を巡れば、

様々な表情の鬼面や優しい不動明王と出会え、

「くにさき」の鬼に祈る文化を体感できる。

修正鬼会の晩、共に笑い、踊り、酒を酌み交わす――。

「くにさき」では、人と鬼とが長年の友のように繋がれる。

日本遺産に認定された 鬼の文化

平成30年（2018）、大分県国東市・

豊後高田市が共同申請した、鬼が仏になつた里『くにさき』が県内3件目の日本遺産に認定されました。

古代、九州の東に張り出すくにさきの

地には、ノコギリの歯のように連なる奇岩・怪石があり、その向こうには鬼が棲む「大魔所」があると考えられ、恐れ

られていました。中世になると、鬼の強大な力に圧倒された僧侶たちが、鬼を

仏の化身と考えるようになります。僧侶たちは大魔所に入り、「峯入り」という修業を行ったことから、くにさきでは

次第に多くのお寺ができ、人の住む里へと開かれていきました。やがて、くにさ

きの鬼は神仏の化身として親しまれ、災いを取り除いて人々に福をもたらす存在となり、新年の幸福を願い、厄祓いのお祭りである修正鬼会のような文化が受け継がれてきたのです。

※日本遺産認定のストーリーに合わせ、文中「くにさき」と表記しています。また、認定のストーリーには地域の伝承や風習が含まれています。

Column

修正鬼会の鬼は 不動明王？

修正鬼会に登場する鬼は、仁聞菩薩や不動明王の化身などであるとされています。くにさきの鬼には不動明王との共通点が見られ、不動明王が持つ宝剣と同じ剣を持っています。また、鬼が棲むといわれたくにさきの岩屋には不動明王が多くまつられています。一般に、不動明王は怒りを表した恐ろしい表情をしています。鬼が親しまれたくにさきでは、丸顔でやさしい表情をした像が多くあることも特徴です。平安時代のやわらかな表現を用いた木造の不動明王など、目の前に立つと深い安心感を得ることができ、あえて柔和な顔の子どもの姿で表した像もあり、さまざまな不動明王を通じて、くにさきの鬼に祈る文化の深さを知ることができます。

岩戸寺
修正鬼会



成佛寺
修正鬼会

鬼と出会う年に一度の夜が「修正鬼会」。江戸時代には20か所以上の六郷満山の寺院で行われていましたが、現在、市内では成佛寺・岩戸寺の2か所のみとなり、隔年で行われています。午後3時の勤行で始まり、鬼が家々を回るのは午前0時頃。明け方に全ての行程が終わります。

国東ルーツ

歴史と文化



国指定重要無形
民俗文化財
吉弘楽

楽庭(がくにわ)八幡神社の境内で奉納される楽打ちで、南北朝時代に始まったといわれています。総勢49人で行われる太鼓打ちは、兜、腰巻、旗指物をまとい、中世の武士を思わせる出で立ちで勇壮に舞います。

昔ながらの作法を守り、受け継がれてきた伝統行事。

そこには、古の時代を色濃く伝える信仰の歴史が刻み込まれています。私たちの先祖が持っていた生活に根付く信仰心を、時を越えて垣間見ることができます。

受け継がれる 祭り文化

古来、国東の人々は五穀豊穡、海上安全、無病息災などを切に願い、神や仏、そしてこの地ならではの鬼に祈りを捧げてきました。福を招く鬼が無病息災を祈願する修正鬼会や、火の粉の飛び交う中で五穀豊穡を占うケベス祭、南北朝時代に戦勝と五穀豊穡祈願のために始まったとされる吉弘楽、180年以上の伝統を受け継ぐ諸田山神社の御田植祭、炎が吹き上がる舟から男たちが豪快に川に飛び込む川舟祭など、人と自然、信仰が融合した国東独特の祭りや文化が生まれ、今日まで受け継がれています。地域に残る祭礼や神事は、人々が絆を深めていくための大切な行事であり、互いに助け合うことで成り立っていた村落共同社会の姿をほうふつとさせます。

諸田山神社の御田植祭、炎が吹き上がる舟から男たちが豪快に川に飛び込む川舟祭など、人と自然、信仰が融合した国東独特の祭りや文化が生まれ、今日まで受け継がれています。地域に残る祭礼や神事は、人々が絆を深めていくための大切な行事であり、互いに助け合うことで成り立っていた村落共同社会の姿をほうふつとさせます。



▲川舟祭

江戸時代から伝わる神事。炎を上げる舟から男衆が川に飛び込み、海上安全、大漁、商売繁盛などを祈願します。



▲諸田山神社 御田植祭

春分の日、境内を水田に見立てて行われる田植え神事。滑稽な化粧や動作で観客を沸かす、ユニークな行事です。



▲ケベス祭

面を付けたケベスが主役の起源が一切不明の祭り。振りまかれる火の粉を浴びると無病息災になるといわれます。



◀ 紙本著色文殊仙寺境内図

として認められた文殊耶馬は、江戸時代の人の目にも絶景として映っていたことがうかがえます。



文殊耶馬と原生林

【国指定名勝】 文殊耶馬

県内では5例目となる国指定名勝。文

殊耶馬とは、文殊仙寺周辺に広がる岩山や、ウラジロガシを中心とする自然林などの優れた風景を指します。江戸時代に描かれた「紙本著色文殊仙寺境内図」が今に伝えられていることが特徴の一つで、絵図には近世・近代に見出された景勝地の風情が描かれています。時を越えた現代、「わが国のすぐれた国土美」として認められた

国東の偉人



世界を歩いたキリシタン
ペトロ・カスイ岐部

16世紀に国東で生まれ、苦難の旅を乗り越えてエルサレムを訪れ、ローマで司祭となった福者。

国東市では、おだやかな気候と海・山のすばらしい自然に恵まれた中、豊かな歴史と文化が育まれてきました。そして、日本の歴史上重要な役割を果たした人、さまざまな分野で大きな功績を挙げた人、地域貢献に尽力した人など、数々の分野で偉業を残し、全国・世界に誇れる優れた先人が生まれ育ったふるさとでもあります。

主な偉人に、日本人で初めて聖地エルサレムを巡礼したと伝えられるカトリック司祭ペトロ・カスイ岐部（1587～1639）や、「玄語」「贅語」「敢語」の梅園三語を表し、条理学と呼ばれる学問体系を打ち立てた学者・三浦梅園（1723～1789）などがいます。

江戸時代の思想家・
自然哲学者、医者
三浦梅園



豊後聖人とも呼ばれる江戸時代の学者。三浦梅園資料館では彼の遺稿を数多く展示し、紹介しています。

～interview～

ありのままの国東を伝える

私が国東の歴史文化を伝えるときに気を付けていることは、過大評価をしないことです。ありのままを伝えることで、来られた方々の感性で国東のことを捉えてもらえるのではないかと考えています。国東の未来を担うのは、子どもたちです。歴史を遊びながら体験させて、その子どもたちが国東をどう色付けしていくのか楽しみです。



歴史に興味を持たせるのは大人の役目、と金田さん。

弥生のムラ国東市歴史
体験学習館 名誉館長
金田信子さん



国指定史跡の安国寺集落遺跡公園「弥生のムラ」は、古代の歴史・生活・文化を体験できる施設。史跡公園内には、高床建物や竪穴式住居が復元されており、弥生時代の世界を体験できます。歴史体験学習館では、安国寺式土器などの出土品を展示している他、さまざまな古代体験が楽しめます。

弥生時代に
タイムスリップ！

弥生のムラ

COLUMN 03

ずっと昔から
一歩先をいっていた



世界農業遺産 「クヌギ林とため池がつなぐ 農林水産循環の仕組み」



豊かな農村文化を形成する、国東市の効率的な土地・水利用。

世界が認めた農林水産業システム

平成25年(2013)5月、国東半島・宇佐地域(国東市を含む6市町村)が「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」をテーマに、世界農業遺産(GIAHS)に認定されました。

国東半島・宇佐地域は、降水量が少ない上に

雨水が浸透しやすい火山性の土壌であるため、古くから水の確保が困難な地域でした。先人たちは安定的な農業用水を確保するため、小規模なため池を連携させ、効率的な土地・水利用を行ってきました。周辺にはため池の水をかん養するクヌギ林が随所であり、独特の景観を形成し、ため池群から供給される用水は水稲や七島イ栽培といった水田農業を支えています。また、この地域ではク



ヌギを利用した原木しいたけの栽培が盛んに行われ、日本一の産地となっています。クヌギは切り株から15年ほどで再生することから、この原木しいたけ栽培によって森林の新陳代謝が促され、里山の良好な環境と景観の保全につながっています。

農林水産循環の仕組み



降水量が少なく耕作に必要な水が不足する地域に、日本有数の蓄積量を誇るクヌギ林と1,200以上のため池が連携した用水供給システムを確立。水稲や国内唯一の七島イ栽培に計画的に配分しています。また、豊富にあるクヌギ林を利用した原木しいたけ栽培は、水田農業を補い、森の保水性を維持し、貴重な給水源となり、多様な生態系を育ててきました。森の恵みがしいたけの故郷を育み、「木が食料を生む」という世界的な食料安全保障に貢献しています。